

横浜市こども・子育て基本条例に基づく
令和7年度のこどもの意見表明に関する取組状況について

1 趣旨

横浜市こども・子育て基本条例（令和7年4月1日施行、以下「条例」という）第14条の規定に基づき、令和7年度の都市整備局における、こどもの意見表明に関する取組状況等について報告します。

2 条例における位置づけ

条例において、こども・子育てに関する施策を推進するに当たっては、こどもが、社会を構成する一員として、その年齢及び発達の程度に応じて、意見を表明する機会を確保し、その意見を施策に反映させるよう努めること、こども・子育てに関連するあらゆる分野における施策を講ずるに当たっては、こどもの視点を重視するよう努めること等が市の責務として位置付けられています。（第5条）

また、市長は、毎年、こども・子育てに関する施策へのこどもの意見の反映の状況等について、市会に報告することとされています。（第14条）

今回報告する取組の範囲は、施策・事業・取組への反映を主な目的として、アンケートやワークショップ、会議、意見公募、インタビュー・ヒアリングなど、こどもから直接意見を聴いているもののうち、次の内容に該当するものとしています。

- 本市（指定管理者・委託事業者を含む）が主催・共催している
- こども・若者（未就学児から20代程度まで）が意見を聴く対象に含まれている
- すべての市民等を対象とする取組については、こども・若者から意見を聴くための工夫を行っている

（例）・難しい漢字や用語を使わずに、一般向けとは別に、こども・若者にわかりやすく書かれた資料を使っている
・特にこども・若者に特化した広報PRを行っている

4 都市整備局の取組状況

取組①	<u>「燃えにくく、住みやすいまち」の実現に向けた 小中学校での防災授業後のアンケート</u> 【防災まちづくり推進課】
取組内容	<u>延焼の危険性が高い重点対策地域・対策地域に立地する小学校3校、中学校1校で、学校周辺など身近なまちに潜む災害リスク等をテーマにした防災授業を実施した。</u> <u>授業の終わりに、今後の防災まちづくりに向けて、「どんなことをすると横浜の防災が強くなると思いますか」などについてアンケートを行った。</u> 
対 象	小学4・5年生（約170人）、中学2年生（約100人）
実施時期	令和7年6月～11月
主な意見と活用方法等	<u>「公園にもっと防災設備を付けるべきだと思う」「スマートフォンからでも見られるよう、二次元バーコードから読み取れる防災マップがあるとよい」などの意見があった。</u> <u>地域の既存公園に災害用トイレ等の整備を進める等、防災機能を備えた公園の整備を進めるとともに、地域住民のまち歩きの際に二次元バーコードから読みとれるデジタルマップを活用するなど、防災まちづくりの参考とする。</u>

4 都市整備局の取組状況

取 組 ②	<u>みなとみらい地区将来まちづくりビジョンの検討に関する小学生のクラスワーク</u> 【横浜駅・みなとみらい事業推進課】
<u>取組内容</u>	<u>みなとみらい地区における将来ビジョン作成の参考とするため、小学校の授業の時間を活用し、まちづくりのコンセプトや現在に至るまでの取組に関する授業を実施した。</u> <u>「新技術」「自然」「あんしん」などの5つのテーマについて、個別にアイデアを検討していただき、プレゼンテーション形式で発表していただいた。</u> 
<u>対 象</u>	小学5年生（21人）
<u>実施時期</u>	令和8年1月～3月
<u>主な意見と活用方法等</u>	<u>「自動運転タクシー、GPSと信号が連動する交通があるとよい」「広くて自由に遊べる公園がほしい」「建物のすき間に森や緑をつくる」などの意見があった。</u> <u>こどもの視点で見た地区の強みや弱みを把握し、また、将来ビジョン策定にあたって施策検討の参考とする。</u>

4 都市整備局の取組状況

	取組名	所管課	対象	実施時期	主な意見と活用方法等
1	みなとみらい地区将来まちづくりビジョンの検討に関する大学生アンケート	横浜駅・みなとみらい事業推進課	大学2年生（80人）	令和7年6月	「近未来感のある街。最新の技術を常に取り入れ続けてほしい」「自然を取り入れたり、人々がくつろげる場所を作ってほしい」「地区内が広大で目的地間の移動が遠く大変に感じる」などの意見があった。 こどもの視点で見た地区の強みや弱みを把握し、また、将来ビジョン策定にあたって施策検討の参考とする。
2	「燃えにくく、住みやすいまち」の実現に向けた小中学校での防災授業後のアンケート	防災まちづくり推進課	小学4・5年生（約170人）、 中学2年生（約100人）	令和7年6月～11月	「公園にもっと防災設備を付けるべきだと思う」「スマートフォンからでも見られるよう、二次元バーコードから読み取れる防災マップがあるとよい」などの意見があった。 地域の既存公園に災害用トイレ等の整備を進める等、防災機能を備えた公園の整備を進めるとともに、地域住民のまち歩きの際に二次元バーコードから読みとれるデジタルマップを活用するなど、防災まちづくりの参考とする。
3	「旧富岡倉庫地区跡地利用基本計画の改定」に向けた意見募集におけるこどもからの意見聴取	地域まちづくり課	小学4～6年生、 中学生（約270人）	令和7年6月30日～7月31日	こどもたちからは、生活利便施設、公園・広場、運動施設等を求める声が多く挙がった。 計画案に未掲載で、計画の方向性と一致する意見（運動施設等）について、施設のイメージ例として追加するなど、旧富岡倉庫地区跡地利用基本計画の改定に反映した。
4	ヨコハマ市民まち普請事業「子育てプラス」における施設整備の検討にあたり実施した、こどもからの意見聴取	地域まちづくり課	小学生（約80人）、 大学生（約30人）	令和7年7月～令和8年1月	ヨコハマ市民まち普請事業「子育てプラス」の提案団体が、整備内容を検討する中で子どもたちの意見を反映している。

4 都市整備局の取組状況

	取組名	所管課	対象	実施時期	主な意見と活用方法等
5	水際線まちづくりコンセプトプランの策定に向けた大学生からの意見聴取	まちづくりプロジェクト推進課	大学生（25人）	令和7年10月～令和8年1月	「水際線の上に案内サインが少ないと感じた。」 「足元から照らすようなオシャレな照明を設置してほしい。」 「象の鼻パークでは、キッチンカーの出店、屋外イベントを実施することでにぎわいが増すと思う。」 「都心で芝生に横になれるのは貴重な体験だと思うので、緑とにぎわい空間の創出は実現させて欲しい。」などの意見があった。 上記の意見を踏まえ、水際線まちづくりコンセプトプランの策定の参考とした。
6	「米軍根岸住宅地区跡地土地利用の方向性」意見募集におけるこどもからの意見聴取	基地対策課	小学5・6年生、中学生（63人）	令和7年10月20日～11月19日	小学生や中学生の視点で、日常的にスポーツを行う場が不足しているという趣旨で、具体的な運動施設に関する意見や、アミューズメント施設に関する意見が多く寄せられた。また、自習ができる学習の場や、多世代の人と交流する場があったらいいという意見もあった。 まちづくりに対する率直な意見などを把握することができたので、今後、土地利用計画を検討するにあたり、参考とする。
7	みなとみらい地区将来まちづくりビジョンの検討に関する小学生のクラスワーク	横浜駅・みなとみらい事業推進課	小学5年生（21人）	令和8年1月～3月	「自動運転タクシー、GPSと信号が連動する交通があるとよい」「広くて自由に遊べる公園がほしい」「建物のすき間に森や緑を作る」などの意見があった。 こどもの視点で見た地区の強みや弱みを把握し、また、将来ビジョン策定にあたって施策検討の参考とする。
8	れきけんカード探検隊（こども歴史まち歩き）におけるイベント参加者へのアンケート	都市デザイン室	小学生、中学生（3人）	令和8年3月	まち歩きの中で印象深かった歴史的建造物など、こどもがどういった所に興味を持ったのか知ることができた。 上の結果を踏まえ、幅広い層への歴史的建造物の広報普及の方法に反映する。